

クールアイランド舗装の効果について発表した報告会
—多治見市東町、セラミックパークMINO



マレーシアでの冷却舗装実験

地表温度4.4度低下

現地大学教授 多治見で報告

マレーシア工科大学（UTM）の教授らが8日、多治見市を訪れ、昨年11月に東濃建設業協同組合がマレーシアで施工したクールアイランド舗装の効果について報告。アスファルト舗装に比べ地表面の温度が4.4度下がった、と発表した。（藤田聡）

同組合は、名古屋工業大学の太陽熱反射都市冷却理論に基づき、瓦やタイル、塗料などを開発。昨年、UTMと技術提携し、ヒートアイランド対策として、都市開発（イスカシナル計画）が進むショッピングモール市内の駐車場でクールアイランド舗装の実証実験を行うことになった。

研究報告会は、多治見建設業協会と名古屋工業大学の共催で、東町のセラミックパークMINOで開かれた。関係者約100人が出

席。多治見商工会議所は、通常のアスファルト舗装に比べ、地表面の建設業界は、新しいビジネスを強力に推進しており、ぜひ成功してほしい」とあいさつ。

続いて、UTMのフアデル博士と学生のニコラスさんが経緯と実証実験の結果を報告。クールアイランド舗装は、通常のアスファルト舗装に比べ、地表温度で4.4度、地中（地下30センチ）温度で0.6度下がったことを報告した。

UTMでは、今後、スコールによる温度上昇の抑制効果も合わせてヒートアイランド対策の研究を続けていく方針。